

# 大分県 令和元年度完了報告書

## 1. 調査研究概要

本県では、平成30年8月に「学校全体で組織的に進めるカリキュラム・マネジメント」を作成している。各学校においては、学校の教育目標の見直しを行うとともに、教育目標の達成に向け、学校として育成を目指す資質・能力を明確にし、その資質・能力と関連が深い教育内容を選択して、各教科等の関連を図りながら学習を進められるよう、単元配列表の作成及び活用に取り組んできたところである。本調査研究1年目は、特に、学校の教育目標の実現に必要な資質・能力をどのように設定していくのか、また、その資質・能力の育成については学校の教育目標の達成に向け、各教科等を効果的に関連付けた教育課程の編成・実施に重点をおき、研究に取り組んだ。

成果としては、各実施地域ともに、学校として育成を目指す資質・能力の設定及び関連する教育内容の選択、教科等の関連を意識した実践を促す単元配列表の作成、作成した単元配列表を活用しながらの教育課程の編成ができたこと、また、a部会・c部会において、人的・物的資源の活用が進んだことが挙げられる。課題としては、カリキュラム・マネジメント充実のための2つ目の側面にある、教育課程の実施状況を分析し、課題となる事項を見だし改善方法を立案して実施することが不十分だったことが挙げられる。次年度は、必要な体制や日程を具体化し計画的な取組とするよう改善が必要である。

### (実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
5月	・ 第1回カリキュラム・マネジメント検討会議
6月	・ 日出地域 b 部会検討会議①
7月	・ 豊後高田地域 a 部会検討会議① ・ 日出地域 a 部会検討会議① ・ 日出地域 b 部会検討会議②

8月	・豊後高田地域 b 部会検討会議①
9月	・日出地域 a 部会検討会議②
10月	
11月	・豊後高田地域 b 部会検討会議②（堀教授招聘） ・豊後高田地域 c 部会検討会議①（三次教授招聘） ・日出地域 a 部会検討会議③（伊藤教授招聘） ・日出地域 b 部会検討会議③（堀教授招聘）
12月	・文部科学省実地調査（豊後高田地区：真玉小学校，香々地小学校） ・豊後高田地域 a 部会検討会議②（伊藤教授招聘） ・カリキュラム・マネジメント検討会議（豊後高田地域）
1月	・豊後高田地域 b 部会検討会議③（堀教授招聘） ・豊後高田地域 c 部会検討会議②（三次教授招聘） ・日出地域 a 部会検討会議①
2月	・豊後高田地域 a 部会検討会議③（伊藤教授招聘） ・日出地域 b 部会検討会議④（堀教授招聘） ・第2回カリキュラム・マネジメント検討会議
3月	

## 2. 調査研究の内容

実践校【豊後高田市立真玉小学校】

(1) 研究テーマ「自分の考えを持ち 伝え合い 共に高め合う 子どもの育成  
～総合的な学習の時間における主体的・対話的な学びを通して～」

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

### (2) 調査研究の内容

県教育委員会作成の「総合的な学習の時間の充実に向けて」及び「学校全体で組織的に進めるカリキュラム・マネジメント」等を活用しながら，総合的な学習の時間を核とした教育課程の編成・実施を行った。

#### ①教科等横断的な視点で学校の教育目標達成に必要な教育内容を組織的に配列

まずは，児童の実態を把握し直し，目指す子どもの姿や目指す資質・能力を明確にするとともに，学習指導要領で求められる内容を踏まえて学校教育目標を設定した。

そして，総合的な学習の時間の全体計画に示した内容を踏まえ，総合的な学習の時間の年間指導計画を具体的に策定し，各教科等との関連や図書館活用，地域との関わりについても明示した。総合的な学習の時間においては，子どもたちが自ら課題に向かって探究し続ける深い学びをつくり出すために，設定した探究課題の特質を踏まえ，課題解決を図るための教科等横断的な単元計画づくりを進め，教職員自らが単元をデザインしながらカリキュラム・マネジメントを進められるよう，単元配列表を作成した。

さらに，今年度の取組を踏まえ，総合的な学習の時間を核にしたカリキュラム・マネジメントを一層推進するため，単元配列表改善のポイントを全教職員で共有し，次年度に向けた改善

を行うことで、学校教育目標の実現を目指す。

## ②教育課程を編成・実施・評価し改善するPDCAサイクルの確立

総合的な学習の時間における学習課題や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりの改善に向けても評価・検証を実施した。

子どもに付けたい資質・能力が、授業を中心とした学びの中でどのように子どもの意識や意欲の変容につながってきたのかを分析・検証することで、学校や家庭における探究学習の支援の在り方が明確になると考えた。そこで、第5学年児童を対象に「みんなでわかる・たのしい授業を作っていくためのアンケート」を研究前と後に実施した。4月実施結果よりも1月実施結果では全ての項目において肯定的な回答が増えた。

このアンケートを分析・検証し、総合的な学習の時間における授業改善を積極的に推進、児童の資質・能力を育成する視点に立って指導と評価の一体化を進めていくようにした。また、本年度の研究の成果と課題を分析するために、SWOT分析を実施した。個人で、「人・もの・こと」である児童・保護者・地域・予算・教材・時間場所等について、4つの視点（内部環境の強みと弱み、外部環境の機会と脅威）で分類し、さらに全教職員で内容を整理し分類し、改善点を確認した上で、来年度の教育課程、単元配列表の作成に生かしていった。

## ③必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めての活用

地域人材の活用は、教育課程の円滑な実施や効果的な授業づくりには欠かせないものである。そこで、地域支援コーディネーターに人的資源の掘り起こしや新たな人材を紹介いただきながら授業に生かしていった。本年度は、延べ132名の人材を授業において活用することができた。年度末には、活用状況を振り返るとともに、地域人材バンクの見直しを行い、適切な人的・物的資源を適切に活用できるようにする予定である。

## ④教職員が意識を共有して業務改善を図るための指導体制（学校運営上の工夫）

学校教育目標の具現化のため、教育課程や年間指導計画の編成・実施について、教科等や学年を超えて教職員全員で取り組むことができるよう、校務分掌を基に、教職員の役割分担を行った。その上で、校内研修会で共通理解を図った。

さらに、カリキュラム・マネジメント検討会議を開催し、学校教育目標の具現化に向けて、組織的な取組により子どもの学びの姿がどのように変容したか、また、どのような課題が残ったのかなどの検証、改善策等についても全教職員で検討した。

## (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と今後の取組

### ①教科等横断的な視点で学校の教育目標達成に必要な教育内容を組織的に配列することについて

○学校の教育目標から描いた目指す子どもの姿と総合的な学習の時間の目標を関連させ、具体的に育てたい資質・能力を設定することができた。

●学校の教育目標を具現化するため、総合的な学習の時間の内容として設定した探究課題や育成を目指す資質・能力の再検討を行う必要がある。

### ②教育課程を編成・実施・評価し改善するPDCAサイクルの確立について

○各教科・領域における指導内容と総合的な学習の時間の指導内容を関連させた単元配列表を作成するとともに、資質・能力の活用・発揮を踏まえた修正を行うことができた。

○第5学年を対象に、みんなでわかる・たのしい授業を作っていくためのアンケートを作成し、さらに研究前と後の変容を見ることで、評価・改善に役立てることができた。

- 学んだことが、子どもたちにどう生かされているのかを見取るための手段や把握の在り方と評価・検証の在り方をどのように連動させていくのか、研究していく必要がある。
  - 育てたい資質・能力を児童の実態をもとに把握するための効果的なアンケートを実施するため、調査項目の検討及び分析・検証の在り方が課題である。
- ③必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用することについて
- 地域支援コーディネーターとの連携により人的資源を新たに掘り起こすことができた。
  - 授業で地域人材を活用することで、子どもたちが考えを深めたり、今後の生き方や日常生活について見つめなおしたりする状況を生むことができた。
  - 人的・物的資源等の効果的な活用については、検討していく必要がある。
- ④教職員が意識を共有して業務改善を図るための指導体制（学校運営上の工夫）について
- カリキュラム・マネジメントに対する教職員間の共通理解を図り、総合的な学習の時間における実践交流や実践の振り返りを行うことで、単元構成、授業展開を考えることの重要性に気付くことができた。
  - i padを活用し、学んだことを蓄積することで、子どもたちが授業中、何をどのように思考していったかを振り返ったり、確認したりすることができた。
  - 授業展開で「深める」時間を十分に確保できず、児童が考えを深めるまでにいたらなかった。単元構成、授業展開について研修を行っていく必要がある。
  - 他の学年との関連や関連する教科の時間をそろえて指導の効果を高める組織的な配列を考える工夫する必要がある。

**今後の取組**

- ☆児童が作成した新聞等の成果物や、今までに学習した内容をまとめた学びの履歴を掲示し、振り返りの時間等に活用することの有効性を検証する。
- ☆教育課程の見直しを行い、全体計画等を必要に応じて改善していく。
- ☆総合的な学習の時間において、児童が主体的に課題を見出し、追究していく展開、考えを深めるための場や手立ての工夫を検証していく。
- ☆各学年の年間指導計画の見直しと教科等の内容と総合的な学習の時間の内容との関連性や各学年で培われた既習学習との関連性を位置付けた単元配列表を作成・活用する。

**(4) 実践校における年間実施スケジュール**

月	取組内容
9月	第1回検討会議（実践校の課題把握）研究の方向性の確認（見直し）
10月	第2回検討会議に向けての事前会議（参観授業指導案審議2回、単元配列表見直し）
11月	先進地視察（横浜市立大岡小学校）
12月	第2回検討会議（参観授業と課題解決方針の修正） 手引き（暫定版）作成のための検討会議（3回）→原案作成
1月	第4回検討会議に向けての事前検討会（2回） 第4回事前検討会（授業参観と課題解決方針の修正、単元配列表の見直し） 手引き（暫定版）原案作成
2月	教育課程の見直し、単元配列表の見直し
3月	来年度教育課程作成

実践校【豊後高田市立香々地小学校】

(1) 研究テーマ「深い学びを実現するための主体的・対話的な授業づくりをめざして  
～カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた単元づくりを通して～」

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

県教育委員会が作成した「言語能力育成ハンドブック」及び「学校全体で組織的に進めるカリキュラム・マネジメント」等を活用し、学校の教育目標達成に必要な言語能力の育成を目指した教育課程の編成・実施を行った。

研究に当たっては、児童に付けたい資質・能力を明確した上で、言語能力の指導系統表や単元配列表の作成に取り組み、これらが教育目標達成へとつながったのか、評価・検証、改善を行い、次年度の教育課程を編成につなげた。

①教科等横断的な視点で学校の教育目標達成に必要な教育内容を組織的に配列

本校児童は、話型を使って自分の考えを伝えようとしたり、相手の考えを受け止めてまとめていこうとしたりする姿が少人数での学習活動では見られるが、その一方で、全体の場や授業以外の生活の場では、自分の考えを主張したり、深めたりする活動において消極的な姿勢が見られ、特に「伝える力」を伸ばしていくことが課題である。

本研究を進めるに当たり、上記の課題を踏まえ、学校教育目標を「アクティブに学び、クリエイティブに表現できる香々地っ子の育成」と設定し、目標実現のために、どのような資質・能力を身に付けた子どもの育成を目指すのか、まず、全教職員で共通理解を図る場を設け、グランドデザインの作成と、目指す姿の設定を行った。目指す姿は、以下のとおりである。

- ・相手の思いを考えながら聞くことができる姿
- ・自分の考えを相手に伝わるように説明できる姿
- ・話し合い（対話）によって考えを深めることができる姿

次に、上記の姿を発達段階に応じて育成するために、目指す姿を低・中・高の学年毎に具体的な姿として設定した。加えて、昨年度から活用している、大分県教育委員会作成「言語能力育成ハンドブック」の内容を分析し、国語科を要とした「言語能力を育成するための資質・能力」についての系統表を作成した。

さらに、カリキュラム・マネジメントの一つ目の側面である「各教科等の相互の関連を図りながら配列を行う」ことの実現を図ることとした。国語科の単元別に付けたい力を明確にした上で単元配列表を作成したあと、「伝える力」に焦点を絞り、国語科の「話す・聞く」の内容を整理して、4月に作成済みであった教育課程の修正を行った。併せて、国語科だけでなく、他教科における言語活動の整理や行事の精選も実施した。

②教育課程を編成・実施・評価し改善するPDCAサイクルの確立

言語能力育成の手立てを取り入れた教育課程の編成や他教科等との関連を図った授業実

践に取り組むため、東京都文京区立窪町小学校で使用されている指導案の様式を参考に、本校独自の指導案様式を作成した。

互見授業や校内研究会の提案授業では、本校独自の指導案及び単元プランをもとに実践を行い、事後研では、学校教育目標の実現に繋がり、かつ、国語科で身に付けた言語能力が他の学習や活動に生かされるものになっていたかを児童、教職員、保護者にアンケートを取り、調査の結果をもとに分析・検証をし、教育課程の修正を実施した。

### ③教育資源の活用

子どもたちに「他教科や日常の中で、納得感の持てる『ことば』にこだわる」力を身に付けさせるように、週に一回「ことばタイム」（10分間）を設定した。「ことばタイム」では、新聞社発行の「学習用ワークシート」、辞典、ドリル等を活用した。

## (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と今後の取組

### ①教科等横断的な視点で学校の教育目標達成に必要な教育内容を組織的に配列することについて

○新学習指導要領で求められているカリキュラム・マネジメントの充実について理解を深めることにより、国語科はもとより各教科等において言語能力の育成を意識した授業実践に取り組むことができた。

○国語科と他教科等を結び付けて単元を計画し、それにより言語能力の育成を図ることが常に求められているのではなく、国語科で身に付けた言語能力を他教科等で活用することにより定着を図るなど、各教科等の関連付け方については、育成すべき資質・能力に基づいて柔軟に考えてよいことが理解できた。

●「話し合い（対話）によって考えを深める」ことについては、国語科において身に付けた言語能力の活用場面の位置付けを工夫するなど、取組の充実が必要である。

### ②教育課程を編成・実施・評価し改善するPDCAサイクルの確立について

○アンケートの回答から、児童が、「自分の考えを説明できる」「話し合いで意見を交流することで考えが深まることを実感している」ことが伺えた。

●話す力については、「順序立てて・中心をはっきりさせて」「事実と意見の区別」の項目で「もう少し」と否定的に回答する子どもや、友だちの意見と自分の意見を比較する意識が今ひとつである子どもが多い実態が伺えること、また、否定的回答が多い子どもは固定化していることが明らかになった。

### 今後の取組

☆新年度の教育課程編成も、「伝える力」を中心に編成する。

☆授業での「言語能力」の充実を図る。

☆評価の仕方を整理する。

☆香々地小版授業構想図を授業者の構想が分かりやすくなるように見直す。

☆必要な人的・物的資源等、地域等の外部の資源も活用していく。

## (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
9月	研修（講師：大分県教育庁義務教育課瀧口指導主事）研究の方向性の確認
10月	第2回検討会議に向けての事前会議 （参観授業指導案審議2回、グランドデザイン、系統表作成、単元配列表見直し）

	先進地視察（東京都文京区窪町小学校）
11月	第2回検討会議（参観授業と課題解決方針の修正）
12月	文部科学省実地調査（参観授業と課題解決方針の修正） 第3回検討会議（手引き（暫定版）作成のための検討会議→原案作成）
1月	第4回検討会議（研修，課題解決方針の修正） 手引き（暫定版）原案作成
2月	教育課程見直し，単元配列表見直し
3月	来年度教育課程作成

### 実践校【豊後高田市立田染中学校】

（1）研究テーマ「他者との関わりを通し，自分の考えを練り，表現できる生徒の育成  
～意見交流の場の工夫をとおして～」

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

### （2） 調査研究の内容

県教育委員会が作成した「総合的な学習の時間の充実に向けて」及び「学校全体で組織的に進めるカリキュラム・マネジメント」等を活用しながら，伝統や文化に関する教育を視点にした教科等横断的な教育課程の編成・実施を行った。

学校内外の様々な人材とつながり，生徒に育成を目指す資質・能力を明確にして，取り組んだ。そして，本校の学校教育目標が達成できたのか，本年度の教育課程の編成・実施において評価・検証，改善を行い，次年度へとつなぐ。

#### ①教科等横断的な視点で学校の教育目標達成に必要な教育内容を組織的に配列

まずは，全教職員で生徒や地域の実態分析を行い，学校教育目標と目指す生徒像，総合的な学習の時間の目標に反映するようにした。生徒は自分の考えを明確に表現し，相手に伝えることが苦手であるため，「自分の意見や考えを論理的に表現できる力」を本年度の重点とし，教科等横断的な視点から教育活動の改善及び教科等や学年を超えた実践を進めていくことにした。本校では，生徒の発達段階に応じた活動を行いながら，「伝統文化」などに関するテーマを多様なアプローチで体験させている。そこで，学校の教育目標の実現に向け，各教科等で行われる単元を俯瞰しながら，他教科等とどのようにつながっているかを意識し，すべての教職員が参画して，創意工夫しながら単元配列表を作成した。

#### ②教育課程を編成・実施・評価し改善するPDCAサイクルの確立

年度当初に立案した教育課程の達成状況や達成に向けた取組について，計画的に点検及び評価することによって，教育課程の成果と課題を明らかにするとともに，組織的・継続的な検証改善を図るようにした。

まず，教育課程の実施状況について，学期毎の検証改善を行った。そして，当該年度の教育課程の成果と課題を把握し，次年度の教育課程の改善に生かすため，評価シートや生徒・保護者・地域・教職員へアンケートを取り，その結果を基に評価を行った。

次に，校内教育課程推進委員会を中心に，評価結果を分析し，教育課程の成果と課題を把握した。さらに，課題については，詳細な分析を行うとともに，改善策についても検討した。そ

の際、「誰が」「どれくらいまでに」、「どのように」改善するのかを視点においた検討を行った。学校関係者評価も参考にし、学校の教育目標の実現を図っていった。

最後に、年度末までに次年度に向けた教育課程の編成を行うことにより、新年度の教育活動が適正かつ円滑に運営できるように取り組む。

### ③必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めての活用

田染地区には、富貴寺、真木大堂などの文化財が点在しており、また御田植祭、田染民謡、八反ずり等、伝統文化が引き継がれている。日頃から伝統文化教育の取組を通して、生徒はたくさんのことを体験し、講師として訪れてくれる学校運営協議会委員、実行委員会、自治委員等、地域の方から田染地区の伝統や文化のすばらしさについて学ぶことができている。

また、少子高齢化が進む田染地区では、地域のコミュニティーセンターである田染交流館「蔵人」で地域のいろいろな世代の方が集まり、「田染を元気にするためには」をテーマに田染の現状や未来について意見を交流する「田染サミット」を行っている。ここに生徒たちも参加し、自分たちが田染のためにできることは何かをより具体的に考えられるように交流を進めていった。そこでは、生徒の提案したPRマスコット作成や修学旅行でのPR活動が実現した。

### ④教職員が意識を共有して業務改善を図るための指導体制（学校運営上の工夫）

学校の教育目標の具現化のため、教育課程や年間指導計画の効果的な実施について、教科・領域等や学年を超えて学校全体で取り組むことができるよう校務分掌に基づき、教職員の役割分担を行った。また、校内教育課程推進委員会を中心に、評価結果を分析し、教育課程の成果と課題を把握した。課題についても、分析を行うとともに、改善策について検討した。

## (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と今後の取組

### ①教科等横断的な視点で学校の教育目標達成に必要な教育内容を組織的に配列することについて

○課題の共有化を図り、教科等横断的な視点で教育課程を編成し、カリキュラム・マネジメントを実施することで、教職員一人ひとりが学校経営に参画することができた。

### ②教育課程を編成・実施・評価し改善するPDCAサイクルの確立について

○学校や地域の強みなどが明確にすることで、改善策を考えるときには、課題だけに目を向けるのではなく、すでにある学校や地域の強みや良さを生かす取組を考えることができた。

○カリキュラム・マネジメントに係る取組を可視化することで、教職員の共有化、意識化につながった。

○カリキュラム・マネジメントにおけるPDCAサイクルの構築ができた。

●学校生活や授業の様子から生徒や教職員の姿の変容についてきめ細かな検証改善を行うところまでには至っていない。

### ③必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めての活用について

○保護者や地域の方々と連携・協働をしながら教育活動を行ってきた。

○教職員の負担軽減を目指し、地域の様々な教育資源を確保・活用するために学校運営協議会との連携を図ることができた。

●取組を進めていく中で生じる新たな課題に対応できるような専門的な知識の獲得や新たな人的又は物的な体制の確保などが課題となってきた。

### ④教職員が意識を共有して業務改善を図るための指導体制（学校運営上の工夫）について

●カリキュラム・マネジメントに関する職員研修が単発的なものになり、効果的な活用につ



いての計画的な検証ができなかった。

- 学校の教育目標の達成に向けてカリキュラム・マネジメントの充実させていくためには、生徒や保護者、地域や教職員の思いの共有や目指す生徒像の共通理解等について話し合う機会を定期的に設定する必要がある。

#### 今後の取組

- ☆全教職員の共通理解のもとに作成した年間指導計画を教科等横断的に確実に実践していく。
- ☆「現在、取組んでいることが生徒にどんな力を付けているのか」「学校教育目標の実現に近付いているのか」等を確認しながら組織的に実践を重ね、持続可能な取組としていく。
- ☆検証可能な教育課程の評価方法についての研究を進める。
- ☆教育課程をホームページなどで公開し、保護者や地域住民を巻き込んだカリキュラム・マネジメントを確立していく。

#### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
9月	研究の方向性の確認（見直し） 第1回検討会 義事務局会（各実践校との事業協議） 第1回検討会議（実践校の課題把握）
10月	第2回検討会議に向けての事前会議（参観授業指導案審議、単元配列表見直し）
11月	第2回検討会議（参観授業と課題解決方針の修正）
12月	手引き（暫定版）作成のための検討会議→原案作成
1月	第4回検討会議に向けての事前検討会 第4回事前検討会（授業参観と課題解決方針の修正、単元配列表の見直し） 先進地視察（福岡教育大学附属小倉中学校、山口市立平川中学校） 手引き（暫定版）原案作成
2月	教育課程の見直し、単元配列表の見直し
3月	来年度教育課程作成

#### 実践校【日出町立藤原小学校】

##### (1) 研究テーマ「自主的に関わり、豊かな表現力を身に付けることのできる子どもの育成」

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

##### (2) 調査研究の内容

まず、児童の実態分析を行い、学校の教育目標と目指す児童像の具体化を図った。その実現に向け総合的な学習の時間を核とした単元配列表を作成した。必要な内容等を教科等横断的な視点で組み立て、年度途中で単元の配列を変えたり、指導の時期をそろえたりするなどして教育課程の見直しを行った。また、ゲストティーチャーとして来ていただいたり、地域の施設等とつなぐ活動をしていただいたりして活用するため「地域のひと・ものバンク」を作成し、地域の人的・物的資源の充実を図った。さらに、コミュニティ・スクール学習部にも、学習ボランティア等と

して活動していただくこととした。

### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

特に国語科と総合的な学習の時間の実践を関連付けた取組を進める学年が増え、単元配列表の見直しを進めることができた。また、コミュニティ・スクール学習部のなかで中心となって呼びかけてくれる方や、「この活動であればこの人、この場所」といったアドバイスをくれる方をお願いすることで、人の思いに触れたり、現地調査で実際に体験できたりする機会を設けやすくなった。その結果、総合的な学習の時間の中でも、昨年度に比べ、数多くの人的・物的資源等を活用することができた。

しかし、活用のための事前打ち合わせ時間の設定や準備時間の捻出が難しかったため、次年度に向けては、情報を蓄積し、学年部での研究をさらに進めていく必要がある。また、学年ごとに具体的な児童像を設定し、評価を繰り返してその像に迫っているかどうかを検証するため、少なくとも単元ごとに配列表の見直しをしたり、子どもの姿や客観的データ等に基づいた評価を繰り返したりしながら、教育課程の編成、教育内容の質の向上に向け、年間1回ではなく、短期のPDCAサイクルを回していかなければならない。

### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
6月	
7月	児童アンケート、指導案検討、カリキュラム・マネジメントに関する研修
8月	グランドデザインの見直し
9月	授業研究①・互見授業
10月	教職員・児童アンケート
11月	互見授業
12月	児童アンケート、令和2年度単元配列表作成
1月	授業研究②・互見授業
2月	児童の実態把握、令和2年度単元配列表見直し

#### 実践校【日出町立日出小学校】

##### (1) 研究テーマ「筋道を立てて考え表現する力」の育成を核としたカリキュラム・マネジメントの在り方

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

##### (2) 調査研究の内容

まず、学校の教育目標の実現に向け、育成を目指す資質・能力について分析を行った。児童に必要な学習の基盤となる資質・能力として「筋道を立てて考え表現する力」を設定し、さらにその力の具体化と系統を明らかにしていった。次に、「筋道を立てて考え表現する力」の育成を目指し、国語科を要としながら教科等横断的な視点での単元配列表の作成を行

った。さらに、学習過程や指導案様式などの実践にあたっての手立ての共有や言語能力育成ハンドブックの活用場面の見直しにも取り組むとともに、より効果的な教育課程の編成につながるため、PDCAを見通しながら評価計画を具体化して実行し、教育課程に反映していった。

### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

カリキュラム・マネジメントに係る3つの側面から成果と課題の分析を行ったところ、次のようにまとめられる。

#### <成果>

- ・学校の教育目標と児童の実態、教職員の課題意識を結び、育成を目指す資質・能力を丁寧にかつ焦点化しながら設定していったことにより、単元配列表の作成や実践をしながらの単元配列表の改善がしやすくなった。
- ・評価方法について研究し、計画的に実施するとともに、その結果を全体に共有したことにより次年度の取組を明確にすることができた。
- ・学校全体として組織的な取組を進めることができた。特に、学力向上支援教員（国語科担当）が、高学年部の単元配列表の作成に積極的に関わるとともに、ハンドブックの活用等についてもアドバイスを行ったことが、教育活動の充実につながった。

#### <課題>

- ・「PDCAサイクルの確立」について、本年度は一巡させるに留まり、短期でのPDCAサイクルを回すことができなかった。
- ・人的・物的資源の活用について、外部人材の活用が十分とは言えなかった。

以上のような成果と課題を踏まえ、次年度に向けては、「1年次の取組等を踏まえ、見通しを持ったスケジュール計画を立てるとともに、学期に1回以上のPDCAサイクルを回すこと」「各教科等の指導計画の中で、外部人材の活用を積極的に行うこと」の改善を図りながら研究を進めて行くことを確認した。

### (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎研修 ・「カリキュラム・マネジメント」とは ・「言語能力育成ハンドブック」内容確認</li> <li>○テーマ設定にむけた研修 ・学校教育目標の確認 ・ワークショップ及び結果分析 ・研究テーマ、内容、仮説の検討</li> <li>○実践準備 ・「国語科の学び」関連単元の確認 ・基本型単元配列表の作成</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回校内研究会の実施 ・指導案の共通理解 ・提案授業①（2-2）</li> <li>○言語能力発達段階（系統）表 ・活用型単元配列表について</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年研究 ・活用型単元配列表の作成 ・指導案の様式確認 ・言語能力発達段階（系統）について</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年実践 ・教室環境整備（言語活用の視点で）</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実践の評価方法について ・教師と児童の振り返りシート提案</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第2回校内研究会の実施 ・指導案作り ・提案授業② ・一般授業 (6-1) (全学級)</li> </ul>

12月	○今年度の取組の振り返り	・教師の振り返り，児童アンケートの実施 ・令和元年度 手引き案作成
1月 2月 3月	○第3回校内研究会の実施 ○各学年実践 ○次年度の準備	・提案授業③（3-2） ・互見授業（全学級） ・次年度使用「国語科」教科書の内容検討 ・令和2年度活用型単元配列表作成にむけて

### 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果，●：課題）

- 本県では，これまでカリキュラム・マネジメントの充実についての協議会等を重ねてきたが，「具体的にどのようなことに取り組んで行ったら良いのかが分からない」「県内で取組がうまくいっている学校の実践例が知りたい」との意見が多く出されていた。本研究において，実態分析等を踏まえた各学校が学校の教育目標の見直しや，育成を目指す資質・能力の設定，各教科等の関連を踏まえた上で単元配列表の作成及び活用，教育課程の実施状況の評価等に計画的に取り組んだものは，県内各学校でカリキュラム・マネジメントを推進する際の参考となる。
- 本研究で作成された指導案等は各教科等の関連を授業者が意識しながら取り組むものとして効果的である。
- 年間1回のPDCAに取り組むことが精一杯であり，例えば学期ごとの見直しや修正を図ることができなかった。単元配列表についても，単元終了時に随時記録を残し，「実践しながら創り上げて行く体制」を確立していくことが必要である。
- 学校評価や教育課程の評価項目を検討し，カリキュラム・マネジメントの効果等が検証できるようにする必要がある。取組の効果を実感することが教師の負担感軽減につながる。

### 4. 参考資料

- ① 令和元年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」1年次のまとめ  
（「手引き（暫定版）」）豊後高田市教育委員会
- ② 令和元年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」1年次のまとめ  
（「手引き（暫定版）」）日出町教育委員会